

サラサラってなんだろう？～砂の不思議を感じて～

作成日:2026.2.10
対象児:2歳児 ひまわり組
作成者:進藤葵月

- ねらい：
- ・砂の感触の違いに気づき、試したり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。
 - ・保育者や友だちの姿を見て学び、自分なりにやってみようとする気持ちを育てる。

どうしてサラサラなんだろう？

こうしてみよう

サラサラになった！



考える



試してみる



発見



～振り返り～

砂遊びの中で、保育者が作ったサラサラの砂と、子ども自身が作った砂を触り比べる姿が見られました。手で触れた瞬間、「なんでこんなにサラサラなんだろう」と不思議そうな表情を浮かべ、何度も砂に手を伸ばしながら感触の違いを確かめていました。その後、保育者がサラサラの砂を作る様子をじっと観察し、「先生はこのくらいでやってるんだ」とつぶやきながら、量や振り方を真似して取り組む姿が見られました。さらに、保育者が「少し濡れている砂はサラサラになりにくいから、白い（乾いた）砂の方がサラサラになりやすいかもしれないね」と伝えると、その言葉を受け止め、自分で乾いた砂を選んで試す姿が見られました。感触の違いに気づきながら繰り返し振る動作を楽しみ、「サラサラになったよ」と満足そうに知らせてくれました。また、これまで近くで様子を見ていた子どもも、この日は初めて「触ってみたい」と自分の気持ちを言葉で伝える姿がありました。実際に触れてみると、「わぁ！サラサラ！」と目を輝かせ、その後も繰り返し砂に触れながら感触を楽しんでいました。その日以降も数日間、自らサラサラの砂作りに取り組む姿が見られ、興味や関心が継続していることが感じられました。後日、再びサラサラ砂遊びをしていると、友だちから「どうしたらサラサラ作れるの？」と声をかけられる場面がありました。保育者が「どんな砂だったらいいんだっただかな？」と問いかけると、「白い砂！」と自信をもって答え、その後「こうやってふるんよ」と、自分の経験を思い出しながら伝える姿が見られました。遊びの中で得た気づきがしっかりと残り、自分の言葉として表現できていることが感じられました。この活動を通して、子どもたちは感触の違いに気づき、疑問を持ち、観察や保育者とのやり取りを通して試行錯誤する姿を見せていました。また、自分の経験を言葉にして友だちに伝える姿から、遊びが学びへとつながっていることを感じました。今後も、子どもたちの気づきや発見を大切にしながら、遊びをさらに深めていけるよう関わっていきたいと思います。

(思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、言葉による伝え合い)